

農学部

| | | | |
|----|-------|-------|---------|
| I | 教育の水準 | | 教育 17-2 |
| II | 質の向上度 | | 教育 17-4 |

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 組織編成上の課題や教育の質保証について、学部教務委員会、学科長会議、学部教授会によって改善、向上に取り組んでおり、これらの組織による検討、審議の結果、平成26年度から、高校生が農学研究への興味を持つことができるように、グローバルサイエンスキャンパス（GSC-ELCAS）に参画している。また、平成28年度から、学力型の入学者選抜試験の志望可能学科を3学科から全学科へ拡大するほか、多様な志望動機に応えるため特色入試選抜（学力型AO入試）を導入することとしている。
- 学部専門科目にかかる学生意見の聴取のため、原則すべての科目について学生による授業評価アンケートを実施している。平成26年度からはWebアンケートシステムによって実施しており、聴取した意見はFD委員会で集計、分析し、担当教員はその結果を科目の検証や改善に活用している。また、インターネットを利用した意見聴取システムであるWebポストやヒアリングを通じて学生の意見を聴取しており、これらの意見に基づいて、学生便覧やシラバスの充実化、教育課程等の改善を図っている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 短期留学推進制度を設け、海外の交流協定校との単位互換を実施しており、平成26年度は留学した学生5名のうち3名が単位申請し、5科目12単位を認定している。
- シラバスを統一様式として、科目内容、授業目的・計画、評価方法等の項目を記載している。平成26年度からFD委員会がシラバスを検証し、必要な改善を教員に指示する体制を整備している。
- 各学科において概論、専門講義、演習・実習、実験、野外実習等を実施しており、授業が教育課程の編成の趣旨に沿った内容となるよう検証、改善に取り組んでいる。また、農場、牧場、演習林等でのフィールドワークを取り入れるなど、学科ごとの特色を活かした教育上の工夫に取り組んでいる。

以上の状況等及び農学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成19年度の入学生から平成23年度の入学生における標準修業年限内での卒業率は、84.6%から90.3%の間を推移している。
- 平成27年度前期の授業評価アンケートでは、授業が自分の学習にとって有益であったと回答した学生は79%となっている。また、2、3年次生の担当科目を対象とした平成22年度の授業評価アンケートでは、個々の科目ごとについては「内容が理解できた」は63%から65%、「準備され、体系的であった」は71%から78%、「教員の熱意を感じた」は73%から83%、「自分の学修に有益であった」は75%から81%となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成26年度の卒業生のうち、大学院への進学者は80%となっている。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における卒業生の主な就職先は、食料生産や生命科学等の専門的な知識が求められる製造業、金融、官公庁となっており、平成26年に実施した官公庁等への5段階評価のアンケートでは、卒業生の印象（基礎知識、教養、国際性等）、教育の印象（独創性、自立性、国際性等）に関する設問についての回答は、平均3.8となっている。

以上の状況等及び農学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 26 年度から、高校生農学研究への興味を持つことができるように、グローバルサイエンスキャンパス（GSC-ELCAS）に参画している。
- 原則すべての科目について学生による授業評価アンケートを実施している。平成 26 年度からは Web アンケートシステムによって実施しており、聴取した意見は、FD 委員会で集計、分析し、担当教員はその結果を科目の検証や改善に活用している。
- シラバスを統一様式として、科目内容、授業目的・計画、評価方法等の項目を記載している。平成 26 年度から FD 委員会がシラバスを検証し、必要な改善を教員に指示する体制を整備している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度前期の授業評価アンケートでは、授業が自分の学習にとって有益であったと回答した学生は 79%となっている。
- 平成 26 年度の卒業生のうち、大学院への進学者は 80%となっている。
- 第 2 期中期目標期間の卒業生の主な就職先は、食料生産や生命科学等の専門的な知識が求められる製造業、金融、官公庁となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。